

University
Current
Review

ISSN 0288-1748 2023(令和5)年11月20日発行【隔月刊】

[特集]

学生食堂の新たなステージ
一時代のニーズに応える大学の取り組み一

大学時報

NO.413
2023.

11



芝浦工業大学



非科学的教育の提唱

昭和六年 十二月

本校機械工學科・具
工學士 經濟學士 有 元 史 郎

我等の知識我等の情愫が現代文化の中にあつて發展する限り、我等の現代文化の諸相とより緊密な接觸より深き交渉を有たなければならぬ。

今の學校教育が世人の非難を受けるは、その教育が學問を學問として授け我等の生活我等の社會と絶縁する傾向を以つてゐるからである。學校を卒へ社會の荒浪にもまれつゝある青年は、學校の正科がその學修が自分達を下らない人間にしてしまつた」とさへ言つてゐる。

中學の卒業者は言つた。歴史、博物、曰く……の學習が、我等の生活を如何に助けたか。我等の人生に如何なる意義を與へたか。我等中學五年間の生活は、上級學校入學者の御招待たるに過ぎなかつたではないか、法規の規定するところ教科書の示すところに従つた我等の學修、一週二十餘時間五年間の我等の努力、それが我等に何を與へたか、それはせいふ、新聞雜誌にある一部分その他下らない何の役立にも立たない、やくざな事實の記憶に過ぎないではなかつたか」と。現代教育に對するこの嘆聲、この不平、我等教育者は如何に聞かすべきか。……これは現代社會の實情を無視した學校教育に對する怨みの聲、呪の聲でなくて何であらう。

大學教育はいくらか如上の傾向を緩和したかの如く見えぬではないが、しかしその實際を觀ると矢張り個々の學問的觀點からのみ教材を選擇し各教科を孤立せしめ、我等の社會生活と縁遠きものにしてしまつてゐる。見よ文學の教材を法律、經濟、理數の教材を、更に見よそれが我等の社會生活の中に如何に溶け込んでゐるか。文學は文學と法律は法律、經濟は經濟、理學は理學と各獨立な姿で相對峙し、各その領域から教材を選擇し、學生の教養に實せんとしてゐる。その結果學生の知識、學生の情意互に聯絡を失ひ、統一ある知識、統一ある行動を取ることが出来なくなつてゐる。

學校教育が一方が、學問的觀點より教科を選定し、教材を蒐集しつゝある間に他方我等の社會生活に於ては、これ等の諸科學がその體系を解離し、我等の社會生活に解け込み、各方面に現代特色ある文化の諸相を示しつゝある。學校教育は須らくこゝに着眼すべきではないか。

學校は少くとも専門教育以上としては學校は只學問のみを教ふるところではない。學校教育の任務は、我等の生活を、社會的個人としての我等の生活を、より良く、より豊饒あるものとするところに深き意義を有つてゐる。我等の社會生活に交渉を有たざる純學問的修養は、少くとも専門教育に於て意義をなさない。學校の諸教科が學問的に選定せられ、各教科に於ける教材が學問的の排列から脱却し得ずその各々が獨立の姿で相對峙するは何としても教育の効果を減殺する障害たらざるを得ない。今後の教育は現代文化の諸相を中心とする、合科的教材、合科的教育でなければならぬ。否現代文化の諸相とせる非科學的の教育でなければならぬ。

こゝにいふ非科學的の教育とは科學を排斥するものでも教育の科學的研究を否認するものでもなく、學問的體系によらざる教育、科學的觀點の下に教材蒐集することなき教育を意味するもの、種種的に言へば我等の生活の中に科學の解け込んだ現代文化の諸相を教材とし、社會の一員たる個人に社會的活動の意義を體得せしめる教育を意味するものである。我等は上述の現代教育の根本的缺點を救済すべく、この意味に於ける非科學的の教育を提唱せざるを得ないのである。

至上の理論に基き本校は今後些か本邦の私立學校として特色ある専門教育を施し以つて實社會に貢獻せんとするもので、本校學生諸君、並に教職員協力一致してその實を擧げ、天下に東京高等工學校の名譽を顕美され果ては就職申込みの官廳會社より採用は東京高工の卒業生に限ると限定される迄に本校の特色を發揮せん事を期す。

非科学的教育の提唱

「実学重視の技術者教育」

→ 社会に学び、社会に貢献する技術者の育成

芝浦工業大学の源は1927年、有元史郎によつて設立された東京高等工商学校である。

有元史郎には「非科学的教育の提唱」と題した論文がある。この論文は実学重視の教育理念と気概を高らかにうたいあげており、当時としては非常に先進的なものであった。専門性の深掘りに特化して、社会と学問を関連付ける全人的な視点を失う傾向に警鐘をならしている。有元のいう「非科学的教育」とは教育の科学研究を否認するものではなく、「我等の生活の中に科学の解け込んだ現代文化の諸相を教材とし、社会の一員たる個人に社会的活動の意義を体得せしめる教育」であった。

有元が唱えた実学重視の技術者育成の理念は「本邦の私立学校として特色ある専門教育を施しもつて実社会に貢献せんとする」と宣言され、

本学の学則や設置要項に記されている。

この理念は創立時から今日まで脈々と伝えられ、いま芝浦工業大学は「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」そして「世界に学び世界に貢献するグローバル理工学人材の育成」を掲げた教育を実践している。近年、産業構造の変化や社会の複雑化により、社会の諸問題を解決するためには複数の分野の専門知識が必要となつてきている。本学では2024年度から工学部を「学科制」から「課程制」に移行する。明治時代から続く「学科」教育の枠を広げて、さらに分野を横断的に学べる融合型の教育研究体制づくりへ。そして研究を主軸とした実践型教育を展開することで、現代社会が抱える様々な課題を発見、解決することができる、イノベーションの推進役となれる人材を育てていく。

大学時報

2023.11 / NO.413

CONTENTS

84 | 80 76 72 64 62 | 60 | 56 52 48 42 38 32 30 | 14 | 10

だいがくのたから 芝浦工業大学

大学点描 順天堂大学

巻頭言 人生100年時代 新井一

視点 大学の研究成果の社会実装とは？ 伊藤公平

座談会 大学はいかに自然災害と向き合うべきか―防災対策と意識向上―

小林光広／城山大樹／井上博司／飯田昌美／(司会)大谷奈緒子

特集 学生食堂の新たなステージ―時代のニーズに応える大学の取り組み―

学食改革―コロナ禍を契機として― 早川和宏

食事だけではない食堂が提供できるもの 國見憲吾

「人」と「知」の交流を生み出すキャンパス内レストランへの挑戦 村川千鶴

ニーズに合わせた学食を目指して 村松航平

学生のアイデアが学食メニューで実現 末木由紀

健康で充実した大学生活を

送ってもらうための朝食バイキングの取り組み 高橋悠

ずいそう 修せざるにはあらわれず、

証せざるにはうるることなし(正法眼蔵弁道話) 石川順之

小特集 学生父母等組織ネットワークの今

つながる喜びと安心を父母に 茂木えり

父母教育後援会の取り組み 井上拓也

保護者によって設立された家庭会 長谷川紹子

父母教のコロナ禍とその後 阿川修三

寄稿

日本の「カルト」問題と対策のあり方 島蘭進

表紙：ユズ

ミカン科の常緑高木。柑橘類の中でも寒さに強く、太陽の力が弱まる10月から12月に太陽に似た黄色い実をつけることから縁起が良いとされます。冬至には強い香りで邪気を祓うため、ゆず湯に入る風習がありますが、現代では薬湯としてさまざまな効能も期待できることが分かっています。

*表紙デザインでは教育・成長・向上を植物になぞらえ、1年ごとにさまざまな種・葉・花・実を紹介します。今年度は実のシリーズです。

129	128	120	112	110	108	106	100	98	90
執筆者・出席者のご紹介(掲載順)	新会員代表者紹介 筑紫女学園大学／聖学院大学	日本私立大学連盟の提言・主張 「大学・高専機能強化支援事業」への要望書を文部科学省へ提出	クローズアップ・インタビュー 元Jリーガー／横浜マリノス株式会社経営企画部 外池大亮さんに聞く (聞き手) 外川智恵	加盟校の幸福度ランキングアップ《水面編》 泉は、泉にして泉にあらざし昭和之泉― 比嘉秀之 水辺を歩く―関西学院大学と六甲の清流― 赤江達也 人と自然の営みが織りなす豊かな水辺空間 尾崎寛直	明日への試み 立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部 持続可能な地域づくりを世界で実践できる人材を育成する 李燕	私の授業実践〜教育現場の最前線から〜 アフターコロナの授業実践 山本直子	寄稿「私大連フォーラム2022×大学時報連動企画」 地域における学びの実践が育む力 ―清瀬旭が丘団地のコミュニティスペース「ぷらっとあさひ」の 企画・運営を通じて― 竹内光子	131 私大連ニュース	132 編集後記



順天堂大学

【教育】【研究】【診療・実践】

人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心。

これ即ち「仁」

〈学是〉

仁

「仁」は、順天堂大学の大学としてのあり方や、教育における考え方の基本になるキーワードです。

「仁」とは、自分本位に行動するのではなく、常に他人の気持ちを思いやり、慈しむ心です。

人は決して一人では生きていけません。

「人は誰かを助け、支えるために生まれ、生きていく」という考え方が、

自分の成長や幸福にもつながるのです。

〈理念〉 **不断前進**

現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続ける姿勢

〈学風〉 **三無主義**

出身校・国籍・性別の差別なく、優秀な人材を求め、活躍の機会を与える



順天堂大学は、8学部4研究科6附属病院からなる健康総合大学・大学院大学として、「教育」「研究」「診療・実践」という3つの柱を通じた国際レベルでの社会貢献と人材育成を進めています。学是「仁」と理念「不断前進」に則り、出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め活躍の機会を与えるという「三無主義」の学風を掲げ、「教育」「研究」「診療・実践」を柱に、グローバル社会において医学・医療やスポーツ、人々の健康を支える人材の育成・輩出に取り組んでいます。

数字で見る順天堂大学

日本最古の医学教育機関



185年の歴史

都心型 / 郊外型キャンパスで学ぶ



5つのキャンパス

健康総合大学・大学院大学として

大学 **8** 学部 **10** 学科



大学院 **4** 研究科

豊富な国際交流活動

27 カ国 / 地域 **80** 機関
(2022年度末現在)



外国籍の学生数
(含: 留学生・短期留学生)

395人 (2022年度末現在)



学部生

6,779人 (2023年度5月現在)



オリンピック・
パラリンピックメダル数

出場選手数延べ **99**人



金 8 **銀** 10 **銅** 3
メダル

大学院生

1,210人 (2023年度5月現在)



2022年度は、コロナ禍の影響が残る中、短期留学生178名を受入れました。また、ロシアによる軍事侵攻により、教育や研究の機会を安全に確保することができなくなったウクライナからの学生・研修医・研究者(計18名)を受入れ、渡日・帰国費用、居住施設、生活費等の支援を実施しました。

教育

順天堂大学では、医学、スポーツ健康科学、看護学、理学療法学、診療放射線学、臨床検査学、臨床工学、国際教養学及び健康データサイエンス学の理論と実際を教授・研究致します。国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識とスキルを基盤に科学及び技術の水準を高め、文化の進展に寄与し、地域社会や国際社会の発展と人類福祉の向上に貢献できる人材の養成を目指しています。

COURSE

POINT

CAMPUS

医学部

- 医学科

180年以上、受け継がれてきた“医学”の歴史が医師としての成長を後押しします。

国際教養学部

- 国際教養学科

豊かな教養と専門性を備え国際社会の多様な価値観の中で活躍できるグローバル市民を養成します。

保健医療学部

- 理学療法学科
- 診療放射線学科

高度な専門知識と技術を持つ理学療法士・診療放射線技師を養成します。

スポーツ健康科学部

- スポーツ健康科学科

「スポーツ」と「健康」をキーワードに、新しい時代を共創します。

医療看護学部

- 看護学科

身体のみならず「心を癒やす看護」を実践できる看護職者を養成します。

保健看護学部

- 看護学科

「仁」の精神と「不断前進」の基本理念地域医療に貢献できる看護職者を養成します。

2022年4月 開設

医療科学部

- 臨床検査学科
- 臨床工学科

「仁」の精神を持ち、グローバル時代に対応できる国際性を身につけた臨床検査技師・臨床工学技士を養成します。

2023年4月 開設

健康データサイエンス学部

- 健康データサイエンス学科

将来の可能性が無限に広がる健康とデータのプロフェッショナル「健康データサイエンティスト」を養成します。



本郷・お茶の水キャンパス
※医学部は1年次さくらキャンパス



さくらキャンパス



浦安キャンパス



三島キャンパス



浦安・日の出キャンパス

※薬学部(2024年4月開設予定)

研究

研究は、大学に課せられている大きな使命の一つであり、その成果を広く世の中に還元することが求められています。

順天堂大学における文部科学省科学研究費の採択件数・額は年々増加しており2022年度には14億円の助成を受けました。科学研究費のうち約3割が女性研究者であり、これは国公私立大学中9年連続で最も高い比率となっています。

(採択件数400件以上の40大学中)

また、企業等と研究を進める共同研究講座や寄付講座は57あり、最近では、教授のみならず、若手研究者が実質責任者となる共同研究講座の開設が増えています。

部門横断的な研究にも力を入れ、全学的な研究支援拠点としての健康総合科学先端研究機構(JARIHES)によるサポートやスポーツ健康医科学推進機構(JASMS)によるスポーツ分野を中心とする学際的研究の推進など、本学の強みを活かした取り組みを進めています。

更に研究者や企業の研究サポートも実施。オープンイノベーションプログラム「GAUDI」は、研究開発における様々な課題解決へのサポートを通じ、研究開発を促進し、開発シーズの社会実装に貢献することを目指して活動を行っています。

2020年順天堂医院は、厚生労働省から全国で13番目の臨床研究中核病院に承認されました。臨床研究中核病院は国際水準の臨床研究や医師主導治験の実施を中心的に担う病院です。

このように各研究科における研究、研究科の組織を越えた研究体制、病院における臨床研究など、順天堂大学の強みを最大限に活かし、研究を通じ社会貢献に取り組んで参ります。

順天堂大学
大学院研究科

- 大学院医学研究科
- 大学院スポーツ健康科学研究科
- 大学院医療看護学研究科
- 大学院保健医療学研究科
- 大学院国際教養学研究科
(2024年4月開設予定)



診療・実践

医療法では、20床以上の病床を持つ医療施設を「病院」と定義していますが順天堂医院を「医院」と称しているのには理由があります。順天堂の創立者・佐藤泰然のあとを継いだ佐藤尚中が、大学東校(東京大学医学部の前身)の開校を主宰していた1871(明治4)年に文部省に対して「病院改称伺」を提出し、その中で「『病院』という言葉には、病人を治すという意味は含まれず、ただ病人を集めておく所という意味合いがある」と指摘しました。順天堂は尚中のこの見識を守り、いまでも本郷の本院を「順天堂医院」と称しています。そして、静岡病院、浦安病院、順天堂越谷病院、順天堂東京江東高齢者医療センター、練馬病院も、地域医療の中核地点施設としての役割を担っています。そこにおける医療実践、診療が患者さんや地域住民の皆様から信頼を得ている背景には、順天堂の学是「仁」を大切に育み、受け継いできたことが根幹としてあります。



順天堂医院

特定機能病院として最先端の知識と技術で高度な医療を提供し、「仁」の精神で患者一人ひとりに向き合い最善の医療・看護を行う。(1,051床)



静岡病院

ドクターヘリを配備し、救命救急センターや総合周産期母子医療センターなどを設置。災害拠点病院などにも指定され、救命救急の拠点としての役割も担う。(633床)



浦安病院

千葉県の東葛南部地域における基幹病院として、周辺住民の人々に寄り添い、高度な医療とともに思いやりのある心温かい看護を提供することを使命とする。(785床)



順天堂越谷病院

地域に根差した大学附属病院として精神医療を中心に診療活動を実施。内科系診療を拡大しながら関連病院と連携をとっている。(226床)



順天堂東京江東高齢者医療センター

医療・福祉の複合施設の中核として、人生100年時代を支える急性期病院。認知症病棟を有し、地域と連携しながら人々のQOLの向上を目指す。(404床)



練馬病院

地域医療支援病院の承認を受け、地域の医療機関との連携を密に行っている総合病院。東京都西北部を中心とした地域医療の充実を図る。(490床)

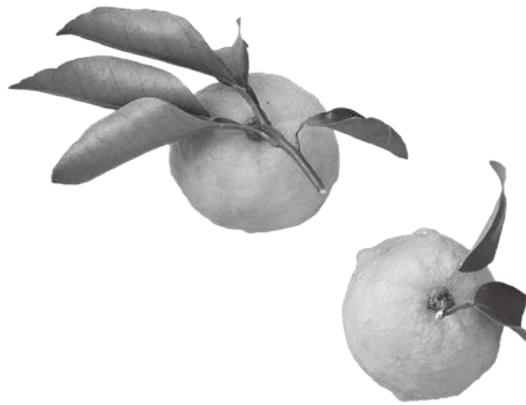
各附属病院においては、市民公開講座を開催しております。

この様な取り組みを通じ、診療のみならず、地域住民の方をはじめとした皆様の医療と健康に貢献できる身近な存在であり続けたいと考えております。

University Current Review

大学時報

2023.11 / NO.413



人生100年時代

新井一 順天堂大学学長

人生100年時代が現実のものになりつつある。しかし、個人が充実した100年を過ごすには、人生を有意義なものにするためのスキルや知識、趣味、職業的な満足などが必要になる。このような時代、大学は開かれた知のプラットフォームとして、人々が学び成長し続けることを支援し、多様なスキルや知識の提供、柔軟なキャリア選択の支援、様々な社会課題への取り組み、ライフロング・ラーニングの推進といった役割を果たしていかなくてはならない。

大学の研究成果の社会実装とは？

伊藤 公平 慶應義塾長

はじめに

『大学時報』410号では、立教大学の西原廉太総長が「本来のリベラルアーツ的教養教育の真意」についての慧眼を披露された。本号ではその延長という位置づけで、大学の研究成果の社会実装について議論する。

1. 科学技術イノベーション戦略が発端の社会実装

政府の科学技術イノベーション戦略という枠組みにおいて、大学には、研究成果を社会実装につなげる仕組みづくりの構築が求められている。「科学的な発見や発明等による新たな知識を基にした知的・文化的価値の創造と、それらの知識を発展させて経済的・社会的・公共的価値の創造に結びつける革新」(第4期科学技術基本計画、

2011年)を求めるのが科学技術イノベーション政策の本旨である。筆者が調べた限りでは、2013年に閣議決定された「科学技術イノベーション総合戦略」新次元日本創造への挑戦〜において社会実装という単語が多用されているのが発端のようだ。理学、工学、農学、医学といった理系分野における発見・発明の応用である。最近の「統合イノベーション戦略」では、「総合知の活用」といった具合に理系以外の重要性も謳われているが、本質は変わっていない。経済創造となると、発見・発明に基づく新産業創出や起業ということになる。社会・公共的価値の創造も併記されているが、経済面に主眼が置かれていることに疑いはない。慶應義塾創立者・福澤諭吉は、ビジネスを蔑む傾向が強かった幕末・維新の時代に、当時の自分の利

益のみを追求する商人の限界を指摘し、社会全体を発展させる実業家の育成に励んだ。その成果が福澤山脈と称される近代日本の発展を支えた実業家たちであった。最近の経済産業省の大学発ベンチャー実態等調査によれば慶應義塾大学発スタートアップ数は、20年が全国10位、21年が5位、22年が3位と一気に伸びている。また大学発スタートアップの資金調達総額では全国1位である。アントレプレナーシップの勢いが増すことは喜ばしい限りであるが、利己的な動機によって駆り立てられがちなビジネスを、利他的な社会の発展につなげるからこそ重要であり、そのための多角的な学びの場を用意するのが我々大学の使命である。

2. 三つのプレナー

本題に入る前に、アントレプレナー、イントラプレナー、インタープレナーという三つのプレナーを紹介する。アントレプレナーはご存知のとおり起業家であり、イントラプレナーは既に所属する企業や機関において内部からその機関を変革する人を指す。二つともビジネスの世界で生まれた用語である。一方、インタープレナーは最近になってか

ら使われ始めた用語であり、私の定義は、異なる団体、自治体、国などを有機的につなげる社会システムを開発し、社会全体の幸福を追求する人を指す。機関としては国連などがその例であり、個人としては、福澤諭吉がその好例であることを後で紹介する。

3. 大学の目的と研究成果の社会実装

高等教育を修了した者に求められるのが、人間本来の利己的な側面と、社会の発展に寄与するという利他的な側面の自制的なバランス感覚であり、想像力と創造力とをもって全社会すなわち全世界の人々の気持ちや文化を理解し、地球上の人類の幸せな現在と将来を作っていくことである。壮大すぎる目標に感じるかもしれないが、誰もが経験できるわけではない高等教育を受けることができる学生にとっては、この志こそが宝であり、この志を生涯持ち続けることが、常に学び続けるという向上心につながる。困窮学生がいることも承知しているが、大学に通うということは、利己的な側面とその自制的なバランスを培うことができる環境におかれていると考えるべきである。学問を駆使して、平和や幸福を社会全体に広げるイン

タープレナーになることが大学生の本懐であろう。

福澤諭吉は『学問のすゝめ』九編において、ある人が良い職に就き、家を構え、立派な家庭を築いたとしても、それだけでは国民として務めを果たしていないと断じている。そして十編の冒頭において「人たるものは唯一身一家の衣食を給し、以て自ら満足すべからず、人の天性には尚これよりも高き約束あるものなれば、人間交際の仲間に入り、その仲間たる身分を以て世のために勉むる所なかるべからず」と九編の内容をまとめている。利己的な部分に加えて、利他的に世の発展に努めることこそが大切ということだ。この一文で注目すべきは、「人間（じんかん）交際をして」といった具合の動詞形ではなく、「人間（じんかん）交際の仲間に入り」と記されていることである。実は福澤は英語の「society」という名詞を「人間（じんかん）交際」と訳したのだ。日本では世間を大切にし、近所付き合い、すなわち、狭いサークル内での人付き合いや助け合いを重んじてきた。このインターサークル活動は人間（じんかん）交際であり、サークル外の人は軽んじる傾向がある。バーゲンセールで周りの人への遠慮など一切なく我先と欲しいものを奪い合いながらも、取り合っている相手が知り合いだったとわ

かるや否やどうぞと譲り合う。電車の席の取り合いでも、知らない人同士では競争しても、知っている人同士では急に譲り合う。一方福澤は、19世紀の欧米歴訪を通して、知らない人同士、異なるサークル、会社、地域などが法や倫理観に基づき上手に結びつき、文明社会を形成する状況を観察し、その結果として成り立つ好ましい社会を「人間（じんかん）交際」と訳したのだ。その上で、「世の中に最も大切なものは人と人との交り付合なり。是即ち一の学問なり」（豊前豊後道普請の説）と述べ、「凡そ世に学問といい、工業といい、政治といい、法律というも、皆人間（じんかん）交際のためにするものにて、人間の交際あらざれば何れも不用のものたるべし。∴交際愈々いよいよ広ければ人情愈々和らぎ、∴戦争を起すこと軽率ならず」（『学問のすゝめ』九編）と説いている。福澤は、交流のない村や町をつなぎ、文明的な社会、文明的な日本を作り上げようとしたインタープレナーだったのだ。そこで力を発揮するのが学問であり、これこそが学術成果の社会実装なのである。

さて、異なる世間や組織、国が共通のルールに則り、よりよい社会を作っていくことが今で言うところの社会科学という学問の社会実装なのだが、人間関係のすべてが

社会科学の理論通りに進むわけではない。論理的思考に基づく社会科学は学問の粹であるが、現実においては、様々なステークホルダーの感情や人間関係が支配して、論理的思考が実装できない状況にも直面する。福澤が *society* を「社会」と単純に訳さなかったポイントはまさにここにあると筆者は推察している。科学的な思考に加えて必要となるのは人間力であり、人間だからこそその価値観や拠り所に関わる文学、芸術、宗教、哲学、倫理学といった人文学なのであろう。ロシアによる侵攻の被害で最悪な状況におかれたウクライナ人が、それでも生き続ける意味を文学に見出したという記事を最近読んだ。なぜ生きるかという最も基本的な問いに現代科学は答えることはできない。このような人々とつながるためには現代科学だけでは不十分なのである。

410号で西原総長がリベラルアーツの重要性を論じ、「教育とはあくまでも、『ひと』一人ひとりの人格を陶冶し、そのことによつて社会、世界に福利をもたらすための尊い働き」と記している。さらにその前の409号では、駒澤大学の各務洋子学長が「いかなる状況下においても本質を見極め、自他(自利・利他)の視点で自分の能力を最

大限に発揮できる人材が求められる」と述べている。立教大学はキリスト教(米国聖公会)、駒澤大学は仏教(曹洞宗)、慶應義塾大学は洋学といった具合に、建学の精神は異なるが、学問によつて社会を平和で幸せに導くという考え方では完全に一致している。これこそが我々が考える大学の研究成果の社会実装であり、これを実行できるかが今の我々、大学人に問われている。

慶應義塾としては、一人でも多くのアントレプレナーが育ち、学生らが社会全体の平和と幸せを実現する実業家として飛躍する教育体制の発展を常に心がける。そして、様々な事業体において自らの変革を主導するアントレプレナーの存在が大切になっているのと同様、慶應義塾においても教育と研究を中心とした現代の高等教育機関のあるべき姿を的確に追い求めるアントレプレナーシップを大切にし、一人ひとりの研究者は自分の研究分野に変革をもたらすアントレプレナーとしての志を高くすることが重要である。ただしこれだけでは不十分で、社会全体を平和で幸せに導く活動、すなわち学問の社会実装によるアントレプレナーシップを発揮するのが慶應義塾の使命であり、すべての大学と一緒に進めていくべき共同作業だと考える。